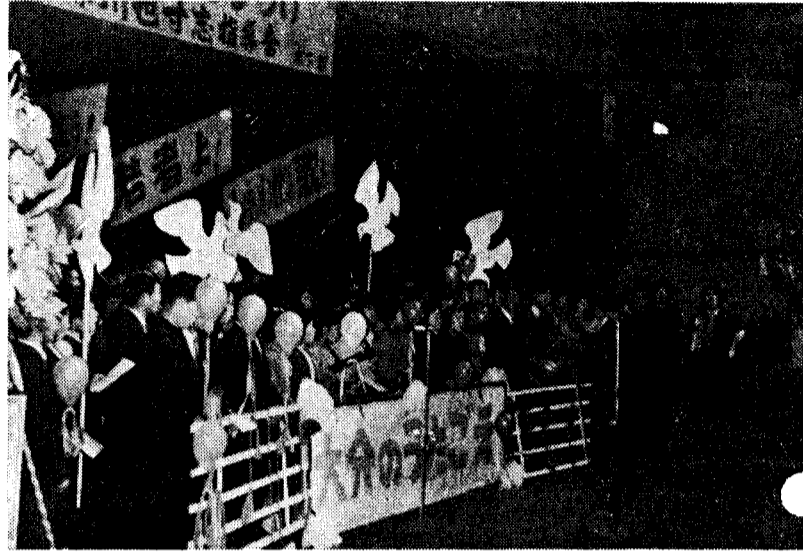


うたごえ新聞

編集 日本うたごえ実行委員会
発行 音楽センター
東京都新宿区西大久保3の67
電話(35)0922
1ヶ月30円(干共)
3ヶ月90円、6ヶ月180円、1年350円

うたごえは平和の力!
原爆を許すまじ
ふるさとの歌を、しあわせの歌を
世界の友と手をつなごう



もやもや会議

桃の節句に筑波山麓で

さる十二日土浦商工会議所で、茨城県南八サークルが集って協議会をひらき、下妻のうたごえのだんだん会員が増えてゆくやまの討議から始まり、「青年会とどう結びたいか」「農村の生活の中でのうたごえ活動」「サークルの運営のしかた」「会員をふやすには」「指導者の欠乏」「学校教師との結びつき」「サークル内の恋愛問題」などのたくざん問題が出された。来る三月三日と四日の「二日間筑波山の麓で「もやもや会議」——もやもやを解決する会議をひらくこと」をきめた。これまで交流会でうたごえ遊びたりはたにやっていたが、じっくりと話し合うことはしなかつたので、米一升と五〇〇円をふんばつて、四つの分科会にわかれ個人生活、運営方法、指導、恋愛の四つのサークルのなやみを腰をすえて話しあうことになった。この会には県南だけでなく、水戸そ

はじめの合唱指導者講習会

北海道

道庁労働部のきも入りで、北海道ではじめての合唱指導者講習会が、一月三十日から二月四日まで札幌の労働者会館でひらかれた。第一日は北海道合唱団の藤本五郎氏が講師として発声の基礎練習などが行われ、第二日から藤本氏のほか松尾肇、中山美智子らの諸氏により、声楽、レコード・コンサート、楽典と和声、指揮法、オルガン奏法などが行われた。出席者は労務から二十二名、全道から二名、国鉄から六名、その他帯路小樽地区からも参加してところせましと大いにまわった。

盛会だった全大分うたごえまつり

職場楽団『青年の歌』合同演奏で

一月十九日(日)大分市の県体育会館で、労働法施行十周年、県労評議会五周年を記念して「全大分うたごえまつり」が県労評議会、県、県教委、地労委、連合青年団、学生自治会の後援で盛大にひらかれた。二十八日は前夜祭で「明日のうたごえをすばらしくするための」交流会、フォーラムの会、うたごえ指導者がひらかれ、三千日間は九州合唱協会が市でひらかれた。(写真は「大分うたごえ」)

「祝婚歌」の贈り物

田中さんの結婚式

口えんま顔……の「宇目」の唄の会館で、県下合唱団の代表者懇談会が二十一日二〇名が参加してひらかれた。「うたごえまつり」に向けてあり上りをみせているが、一般には低調だ。カンパニヤがあるともいえるが、それが終ると沈んでしまう。これは指導者の少ないことと職場での直接間接の圧迫をのがすことができない。「合唱団の中にも」と上手に、きれいに歌いたいというものと、いろいろうたをたまたま楽しく歌いたいというものとがあり、これをどうしてよいかかわらないうたごえまつり問題が出され、他の合唱団の練習曲を知りたい、経験交流の定期集会をもちたい、県センター(白鳩)の確立、お互いの機関紙の交換、共同機関紙をつくらう、中央から講師を招き指導者講習会をひらく……などの提案が出された。うたごえまつりは国鉄、県教組、佐賀、森田、サンサン、サンなどの楽団の合同演奏「若者」で幕をあげた。

全日通て……若人の歌創作

全日通中央青婦部では、闘争に職場に心からうたえる「全日通若人の歌」を募集していたが、全国から五十八篇の作詩があつたり、北海道地区本部畑代子さんの「明日はわれら」が入選した。作曲は長田田子さんの結婚披露会が東武鉄道労働会館で開かれた。会は各労働、うたごえの代表者、それに中央合唱団の東部支部ゆかりのあるメンバー約八〇名があつたり、の演奏に成功した。

福岡県板付基地で 不当な「うたごえ」弾圧

昨年十一月の九州福岡県の板付米軍基地では、米軍大統領直轄の特別調査機関OSIが、全駐板付支部組合員八名を調査していたが、一月廿日、この八名を含む十八名を出動停止、四名を即時解雇処分にした。この中には「うたごえサークル」「映画サークル」の活動をしてきた人々が大部分で、このことは、組合員が自分たちの希望でうたごえ活動をする権利を、組合の正当な文化活動を骨髄に押しつぶす組合を無力にするものとして、全駐板付本部では、ひろく全国に呼びかけ、労組、民主団体、文化団体に協力の要請を出した。一、傘下のひとびとにこの事実を知らせる。二、米軍の文化活動弾圧に抗議をする。三、土屋知事(不当処分の撤回を文書で要請する。四、各職場で似たような例はないかをしらべるとともに、対策を

関先生と語る 美空ひばりさん



さる一月十一日(土)午後六時、東京銀座のレストラン「アラスカ」で日本のうたごえの好きな人たちが集って、いよいよ身近かな二人の女性、「うたごえ運動」の指導者関先生と、

流行歌の花形美空ひばりさんとが懇談した。これは雑誌「平凡」のきもいりで実現したもので、同志上にくわしく報道されるとのこと。関先生は、日本的な情緒のゆたかな美空ひばりさんが、とても好きになつたの幸が、美空ひばりさんは、レコードで始めて聞いた「カチューシヤ」の歌など、一度聞いただけでずいぶんおぼえてしまった。(N記者)

たて絵(大略) 約する(以下略) 一人倉橋清氏は「全駐若の歌」の作詩者である。

豆ニュース

○音楽講座開始 京都の「こたま合唱団」では、一月十四日から、例会に樋口武雄氏を講師にして音楽基礎講座をはじめた。このために、会員から黒板が寄贈された。

おことわり

一月十日発行の第十六号三ページに井上先生の発言は、今後のうたごえ運動発展のために、非常に重要な問題提起されていると考へますので、あのような簡単な形で書いていただくこと、および、「うたごえ運動の五つの問題」を提言された井上先生と志士との鼎談を編集部でおねがいする予定で、読者の皆様からも、いろいろと御意見、御批判をお寄せ下さるよう希望いたします。(編集部)